

自主回収開始後における取組の状況

<製品回収の状況>

現時点での自主回収の状況は以下のとおりです。

3月3日現在回収対象 23品の状況

	23品	(内;ひとくち餃子)
お客様からの返送分	68,913 袋	29,079 袋
流通からの返品分	378,460 袋	80,707 袋
合計	447,373 袋	109,786 袋

回収のために以下の告知活動を行いました。

自主回収記者発表	1月30日
全国主要50紙に社告掲載	1月31日
TVCMにて告知活動を開始	2月2日以降スポット・広告枠で実施(現在も継続中)
新聞にて告知活動	2月5日 全国35紙 2月6日 全国50紙 2月9日 全国主要紙に折込チラシ(4,500万部) 2月10日 全国50紙

<お客様からのお申し出の状況>

お客様のお申し出に対しては誠意をもって対応しています。

JT フーズお客様相談室に寄せられたお客様のお申し出件数は、累計 65,742 件です。記者発表以降一週間は、一日あたり 5,000 件を超える受電件数がありましたが、その後徐々に件数は減り、2月25日以降は一日あたり 500~600 件で推移しております。

受電開始当初は、「回収方法に関するお問合せ」が多数ございましたが、その後、「商品に関するお問合せ」「返金・検査・到着確認」に関するお問い合わせが増加しております。

健康被害をご心配されるお客様も一部いらっしゃいますので、状況をお伺いした上で、まずは病院での受診をお勧めするとともに、体調不良をお申し出

のお客様には、当方から個別に電話・訪問対応でのフォローを行い、近隣保健所等へのご相談をお勧めしています。なお、現在、厚生労働省発表による発症者 10 名の方々以外に、有機リン系農薬混入との因果関係が判明したと弊社で把握している事例はありません。

< 農薬検査状況 >

お客様からのお申し出の際に検査依頼のあったものに加え、回収品 23 品については有機リン系農薬の検査を順次実施しています。

3月3日現在における検査の状況

検査サンプル総数	結果判明数	検出数 ()	未検出数	結果未判明数
1,439	947	12	935	492

詳細

品目	検出項目	製造年月日	検体数	判明日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	メタミドホス 0.01ppm	2004年9月21日	1	2008年2月15日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	クロルピリホス 0.02ppm	2007年7月7日	1	2008年2月22日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	クロルピリホス 0.01ppm	2007年8月5日	1	2008年2月27日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	クロルピリホス 0.01ppm	2007年7月7日	1	2008年2月28日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	ピリメタニル 0.02ppm	2006年1月12日	1	2008年2月28日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	プロシミドン 0.03ppm	2007年11月23日	3	2008年2月28日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	プロシミドン 0.02ppm	2007年11月24日	1	2008年2月28日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	ピリメタニル 0.01ppm	2007年12月3日	1	2008年2月28日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	プロシミドン 0.04ppm	2007年12月16日	1	2008年2月28日
中華 de ごちそう ひとくち餃子	プロシミドン 0.04ppm	不明	1	2008年3月3日

検出された農薬は極微量であり、健康に与える影響はないものと考えております。

検査機関

日本食品分析センター、日本冷凍食品協会、キューサイ等の外部機関 12 社に検査を外部委託しております。

検査項目

メタミドホス・ジクロルボスを含む農薬残留値を検査しております。2月6日から、厚生労働省の検査指針に基づく 45 農薬にホレートを追加し、46 農薬の簡易残留検査を開始しています。

< 回収 23 品以外の農薬検査 >

天洋工場以外の海外からの輸入品についても、順次農薬の検査を行っています。

中国から輸入している市販用商品のうち、現在販売中のものについては、農薬検査を行った結果、問題となるものはありませんでした。

上記以外の海外輸入品についても、順次検査を行っており、3月末までに検査を完了する予定です。

今後出荷する海外輸入品についても、出荷前に同様の検査を行ってまいります。

< 緊急工場監査の実施 >

全委託工場・包材工場に対し、有害物等の混入排除とセキュリティ管理の強化を重点としたチェック項目について自主点検を要請するとともに、中国の委託工場・包材工場については、緊急現地監査を実施いたしました。その他の委託工場についても、3月中に順次監査を実施します。

自主点検の対象は、以下のとおりです。

	自社工場	委託工場	包材工場	計	現地監査スケジュール
国内	3	23	18	44	2/26～3月中
海外	2	20	6	28	2/18～3/7
(うち、中国)	(2)	(14)	(6)	(22)	2/18～2/29 終了
計	5	43	24	72	

自社工場についてはチェックリストで自己点検済

今回チェックを行っている項目は以下のとおりです。

- ・ 工場敷地内への入場管理の状況
- ・ 製造工場内への入場管理の状況
 - 特に不要物持込等に対するセキュリティ管理
- ・ 防虫対策・防鼠対策等に使用される薬剤の保管状況と使用管理の状況
- ・ 監視体制など製造工程管理の状況
- ・ 倉庫管理及び物流の管理状況
- ・ 内部監査や従業員教育の状況
- ・ 検査管理（製品検査及び原料等の残留農薬検査）

中国工場実査の結果、取引が継続できなくなるような重大な問題はありませんでしたが、個々には下記の様な指摘、改善を指導し一層の安全体制強化を徹底しました。

- ・ 入場管理に関して
 - 外来者入場記録の徹底、監視カメラ記録保存期間延長、作業服のポケットレス化（含、倉庫業務）、作業服の下に着用する私服の管理強化と私物持ち込みチェックの厳格化
- ・ 薬剤管理に関して
 - 保管庫の施錠管理徹底、管理記録の徹底、管理規程の明文化、農薬等分析用標準品の施錠管理徹底
- ・ セキュリティ管理に関して
 - 仕掛品・端数品・排除品取り扱いルールの徹底
 - 各作業区における監視体制徹底
 - 倉庫施錠・開錠記録の徹底
 - 包材倉庫の施錠管理強化徹底
 - 従業員のコンプライアンス教育徹底

今後における安全管理体制強化の方向性

3つの柱

・リスク低減に向けた取り組み

- (1) 工場等管理の強化
- (2) 検査項目・体制の充実

・お客様への対応の強化

- (3) お客様のお申し出に対する対応
- (4) 積極的な情報開示

・上記を担保する組織・体制の強化

- (5) 社内体制
- (6) 加ト吉との協働
- (7) 外部専門家の知見活用

- (1) 工場等管理の強化

製造工場に対する監査や、原材料・製品に関する検査について、それらの範囲や頻度を大幅に拡大し、原材料から最終製品に至る範囲を網羅した対応を進めてまいります。

- ・ 製品製造工程を重視していた従来の監査範囲に加え、原料処理・包材工場管理から倉庫物流管理に至るまでのプロセスを監査対象にし、セキュリティ、薬剤管理等の内容を拡充します。
- ・ 従来年間1～2回であった監査頻度を、年間2回の定期監査に加え、抜き打ち監査を行います。
- ・ ISO22000 システム()の導入を進め、将来的には委託製造の条件といたします。(自社工場は1年以内、委託先は2年以内を目途に導入を進めます)
食品安全マネジメントシステムの国際規格。HACCPとISO9001の双方の概念を持ち合わせる。
- ・ 監査結果及び指導に基づく改善度合いに応じて、委託先の再評価を厳格に行い、基準を満たす委託先のみを採用いたします。また、加ト吉のグループ化に伴い自社グループ工場の活用を促進します。

- (2) 検査項目・体制の充実

検査項目に農薬等の化学物質を加えるとともに、国内外の自社検査体制を充実します。

- ・ 現在出荷中の輸入品につき有機リン系農薬の検査を実施しています。(中国から輸入した市販用商品については検査済み。その他は3月中に実施予定)
- ・ 中国からの輸入品については、製造日ロットごとに海外・国内でのダブルチェックを行います。その他の海外品についての化学物質検査については出荷前に国内で検査を行います。
- ・ 有機リン系農薬だけでなく、農薬全般・抗生物質・重金属などについても順次検査範囲を拡大します。
- ・ 原料につきましても、従来工場にて産地変更の都度、圃場チェック、受入原料の残留農薬検査を行うよう指導しており、当社はその実施について監査時点で確認をしておりましたが、今後はそれに加えてJTとして圃場チェック(栽培状況・農薬管理・土壌水質検査等)を行うと共に、残留農薬検査を行います。

- (3) お客様への対応の強化

お客様からの苦情等に対して、徹底的な調査・検査を行うこととし、健康被害の発生時はもちろん、健康被害が発生するおそれが認められる場合には、自主回収を含めた迅速かつ適切な措置を講じるようにいたしました。なお、対応にあたりましては、関係ご当局と密接に連携してまいります。

- ・ お客様からの苦情等に対し、症例の聞き取りや訪問、或いはお取引先様・行政・医療機関との連携を密接に行い、正確な情報把握に努めるとともに、化学物質分析を含めた現品・保管サンプルの徹底的な検査などにより、迅速に事実確認を行います。
- ・ 苦情への対応に当たっては、当該商品、当該ロットなどの単発事象としてではなく、多面的な視点で分析・調査し、あらゆる可能性を想定して、リスク察知能力を高め、自主回収を含めた迅速かつ適切な対応をとります。
- ・ 今回事案に見られるような、通常の食品製造流通過程では想定できない事象が起きていると判断される場合にも、関係行政機関とも連携の上、自主回収を含めた迅速かつ適切な対応をとります。
- ・ 今回発生いたしました重大な健康被害という事実を踏まえ、今後、あらゆる

事態を想定しながら、外部有識者等のご意見も取り入れつつ、食品メーカーとしての対応のあり方について、継続的に見直しを行ってまいります。

- (4) 積極的な情報開示

商品情報や原材料情報など、食の安全に関わる情報を、包装上の表記や当社ホームページ等を通じ広く公開してまいります。

- ・ 各商品について、原材料名、アレルギー情報、原料原産地の情報など、食の安全にかかわる情報を包装上の表記や当社ホームページなどで公開いたします。
(本年4月から、市販用冷凍食品のパッケージに表示している原材料のうち、お客様からのお問合せの多い原料の原産国並びにその商品を製造している工場名の開示を開始します。その後も情報を充実させていきます)
- ・ 安全管理に関する活動状況の周知とお客様の理解促進を進めます。

- (5) 社内体制

本年3月1日に、食の安全管理を一元的に担う「食の安全管理担当」の新規配置、並びに中国において品質管理業務を行う常駐の組織の新設を行いました。また、日本・中国において早急に検査センターを新設・充実させるなど、食の安全管理に関する社内体制を一層強化してまいります。

- ・ 「食の安全管理担当」部長を食品事業本部長直下に配置し、品質管理部・お客様相談室を統括し、グループベースでの安全管理とお客様からのお申し出に対する迅速な対応体制を確立してまいります。(本年3月1日付けで配置済み)
- ・ 食品事業本部品質管理部に中国駐在を新設し、中国委託先工場の監査、製造立会いを行う体制を整えます。(本年3月1日発足。当初2名から順次拡充予定)
- ・ 国内及び中国に検査センターを設置し、自社で化学物質を含めた検査が可能な体制を整えます。分析機器類の設置等準備が整い次第稼働を開始する予定ですが、それまでの間につきましては、既に残留農薬の分析体制を整えている加ト吉の設備・人材を活用してまいります。(国内検査センター=5月~茨城県猿島郡境町にて稼働予定、中国検査センター=7月~山東省威海市にて稼働予定)

- ・ 食の安全に関する社内教育を進め、人材育成に努めます。また、外部人材の積極的登用もすすめます。

- (6) 加ト吉との協働

株式会社加ト吉の子会社化を踏まえ、安全管理面でも同社との事業統合を視野に入れた協働を積極的に行ってまいります。

- ・ 加ト吉とは、JTグループとして一体となって、最高水準の安全体制を早急に確立していきます。
- ・ 事業統合を視野に入れ、現時点からJT・加ト吉両社が協調しつつ安全管理体制の強化を行います。

- (7) 外部専門家の知見活用

複数の外部専門家の方々を顧問として招聘し、定期的に当社の安全管理体制に関する評価、助言をいただくなど、外部専門家の知見・多様な視点を積極的に取り入れる体制を早期に構築します。

- ・ 複数の外部専門家を顧問として招聘し、社内で検討実施していく施策について、その有効性、実効性について評価・助言をいただきます。
- ・ 分野としては、「食品衛生」、「危機管理・コンプライアンス」、「工場管理」、「お客様」、「行政」といった多様な視点でのご意見を採り入れていきます。
- ・ 今後継続的に様々な知見・視点を取り入れてたゆまぬ改善をしていきます。